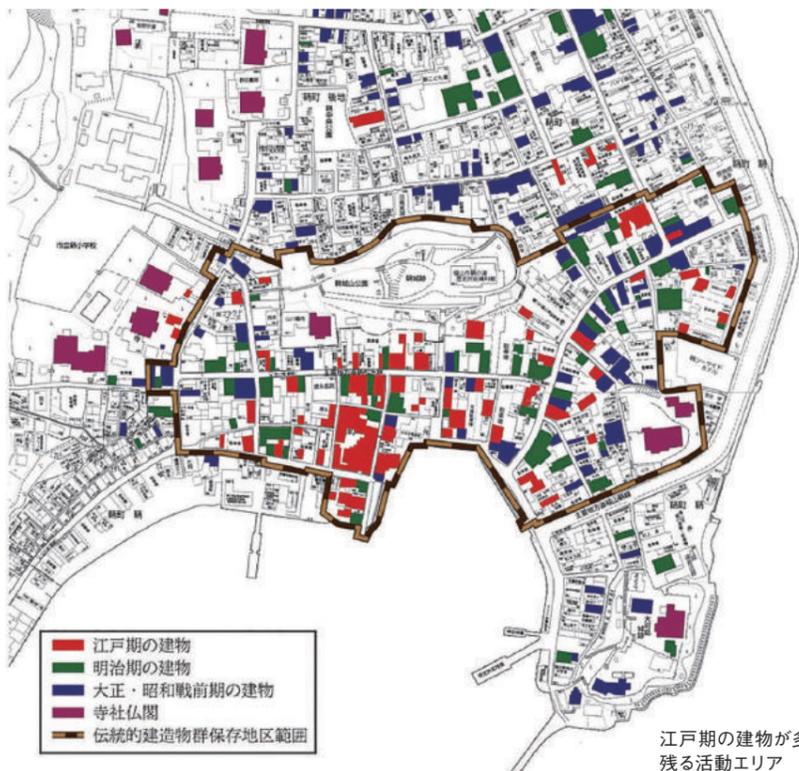


靱・暮らしと町並み研究会 広島県福山市

靱の町並みを後世に伝えるための人材育成



靱の町並みを望む



江戸期の建物
明治期の建物
大正・昭和戦前期の建物
寺社仏閣
伝統的建造物群保存地区範囲

江戸期の建物が多く残る活動エリア

団体設立経緯

2008年、靱町伝統的建造物群保存地区として約8.6haが都市計画決定され、2017年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。重伝建選定を前に「靱港の架橋問題をめぐる遺恨は残っていると思うが、心を一つにして町並みを生かしたまちづくりを進めるしかない」との思いから、住民と行政が連携して町並みを保存するための研究会を立ち上げることにしました。

活動概要と活動対象範囲

広島県福山市靱町で活動しています。主に毎月2回のスタッフミーティングを通して、住民が抱く問題点などを検討しながら、月1回の学習会を開催。毎月1回かわら版を発行し、町内などの関係者へ配布しています。また年2回の現地見学会を開催し、伝建



毎月1回発行する「靱町並みかわら版」で活動内容を発信

地区のあり方について他地域との交流を図っています。これらの学習や見学会により得た知識や経験をもとに、町並み保存について市長へ提言書を提出しています。

活動に至った理由や背景

2008年、伝建地区として都市計画決定され、福山市教育委員会が定めた修理・修景基準による町並み保存事業が始まりました。

しかし、行政が定めた基準は地区内の共通事項のみであり、町家の特徴に合わない建物ができていました。文化財修復の経験のない地元業者が行政の指導を受け、本来靱の浦になかったものがつくられる状況がありました。この問題に対し、自分たちが学ぶことで対応しようと考えました。

活動内容と成果

私たちは、「靱の町並みを後世に伝えるための人材育成活動」をテーマに、地元の方々に町並み保存について関わりを持ってもらうきっかけづくりのために毎月学習会などを開催し、町並み保存についての啓蒙活動を行いました。開催した学習会などは、次の通りです。

◎学習会の開催

・2018年4月24日、参加者16名

国の重要文化財である太田家住宅を守る会のみなさんから、防災設備の見学と災害時の体制についてお話を聞きました。

伝建地区の中心でもある施設が夜間無人になることや、地区に空き家が増え高齢化していることから、非常時に駆け付けることができる人が少ないなど課題があることがわかりました。



重文太田家住宅で、消火放水銃について説明を受ける

日ごろから、消火器や消火栓の位置などどれだけ気になっているか考えさせられる内容でした。

・5月27日、参加者14名

地元の郷土史家の案内で、靱にある石垣を見学しました。2月の学習会を受けたもので、城石垣や寺院の石垣、武家屋敷の石垣、商家の石垣とさまざまな石垣があり、普段から何気なく見ているものでも、実は歴史があることがわかりました。



国史跡対潮楼の石垣について、現地で説明を受ける

・7月21日、参加者20名

6月の現地見学(後述)を受け、実際に文化財建物を修理している公益財団法人文化財建造物保存技術協会

から技術者の方を招いてお話を聞きました。

建物のかつての履歴を調べるため、解体の際に構造材や仕上げ材、釘1本1本の場所や年代、屋根瓦の産地といった現物の詳細な調査を実施。併せて、古文書を読み解き歴史を遡って調査するという、文化財建物を保存するための現場の作業を説明していただきました。



文化財建物の修理事業について説明を受ける

・8月25日、参加者21名

奈良女子大学教授の藤田盟児氏をお招きして、靱の町割りや区割り、古文書から見た所有者の変遷など、町の成り立ちの歴史のお話を聞きました。

普段目にする道路から靱の浦の歴史の古さを知ることができる内容で、時代による尺度寸法の違いから鎌倉、室町、江戸時代の町の成り立ちがわかりました。

・11月11日、参加者20名

市の伝建審議委員を招いて、伝建保存の制度の仕組みについて解説をしていただきました。

ヘリテージマネージャー資格者を抱える業者でないと修理・修景事業が受注できなくなる仕組みや、靱町の防災計画を作成することなど、今後の市の取り組みが紹介されました。



学習会の様子

・2019年1月20日、参加者20名

1月1日に町内で火災が起きたことを受け、立命館大学歴史都市防災研究所の益田兼房氏に、他地域の防災対



学習会後に講師、参加者を交えて意見交換会（2018年8月）

策や火災対策についてお話を聞きました。

全国の町並み保存地区や文化財防災に対する全国の事例を紹介していたが、鞆の浦での課題として特に保存計画の中に防災計画が未策定になっており、町並み保存と防災が重要であることが指摘されました。また、消火訓練で行われるバケツリレーよりも、火災の初期消火に最も重要な消火器の公共設置が必要であることなど、防災対策の重要性を改めて認識する内容でした。



伝建地区内の防火対策の状況についての講義

・2月23日、参加者20名

10月に見学（後述）に訪れた島根県大田市から同市の元職員で伝建保存の担当者を招き、行政が手掛ける保存の取り組みについてお話を聞きました。鞆地区で修復を予定している元檜屋の商家で、内部の構造などを見ながら、どういった点に注意して部材を残したらよいか解説していただきました。

見学後の学習会では、大森銀山地区の保存修理の具体事例が多数紹介されました。建物の現況及び計画図の作成、痕跡の新旧、古写真、伝承、古文書などから建物が現在までにた

どった履歴を明らかにすること、その後どの時代の姿に建物を復原するかが重要といった内容でした。

また、市側が熱心に残したい場合と費用を安く抑えたい所有者との折り合いのつけ方、いかに所有者に理解を求め保存事業に参加してもらうかなど、行政側の意見も聞くことができました。



大森銀山地区での行政の取り組みと民間業者の役割について

・3月24日、参加者23名

日本イコモス国内委員会の伊東孝氏を招き、民間の構造物が世界遺産になった事例や、ギーク遺産として身の回りのものが文化財ととらえられるというお話を聞きました。

民間がつくった生活景観や仕事場、建物、構造物などが世界遺産に登録されたり、観光の目玉になり得たりすることから、身の回りにある何気ないものや地域で大切にされているもの、住民が自慢できるものなどを遺産として保存・活用することができるという事例を紹介。普段から目にしている日常のものでも価値があり、有効に活用できるという考え方である「ギーク遺産」を提唱しています。



チリの世界遺産など、民有財産が文化財になる事例について説明

普段何気なく見ているものでも見方を変えること、何にでも興味をもって調べてみることから新たな発見が生まれ、町を守っていこうという意識が生まれていくと感じました。

◎ワークショップの開催

・2018年12月10日、参加者26名

鞆地区の空き家問題について、東京大学による空き家調査データをもとにワークショップを開催しました。

調査の結果、空き家と推定される建物は300軒以上、そのうち半数が登記内容を確認できないそうです。確認できた建物でも、相続により建物の所有者が30人を超える場合もあり、今後活用しようと思っても誰に交渉したらよいか問題があるそうです。

報告後には、参加者とともに地図を見ながら空き家の情報や利用状況について意見を交換しました。調査では空き家と思われたが、家主が時々帰ってきて利用している状況などがあり、空き家調査の難しさがわかりました。空き家の活用や所有者の意識調査など、研究を進めていく予定とのことです。

◎現地見学会の開催

・2018年6月22日、参加者12名

岡山県倉敷市にある国の重要文化財、井上家住宅の修理の様子を現地専門家の解説を聞きながら見学しました。

約百数十年にもわたる建物の歴史を丹念に紐解いて行くという作業は、気の遠くなるような作業の積み重ねによるもの。修復事業が11年にも及ぶそうです。国民の財産である文化財建造物を、歴史を紐解きながら伝統的技法によって後世に残していくことは、とても大変な作業であると実感しました。

・10月19日、参加者20名

日帰りのバスツアーで島根県大田市の大森銀山地区を訪問。関係者に案内していただき、大田市の職員や地



岡山県倉敷市の国指定重要文化財、井上家住宅の見学会（2018年6月）

元で保存活動をしている方々と交流しました。

伝建物修理工事、社寺、町並み保存事業、防災施設、電線埋設事業、重文の民家公開活用事業の状況を見学しました。その後、鞆の浦からの参加者と大田市の講師5名の方と5グループに分かれ、課題や状況などの情報を交換しました。市が積極的に住民と対話することや、地元企業が60軒もの空き家を改修し、定住を促進しているなど多くのことを学びました。

以上の学習会や見学会などの活動を通じて、様々な専門家と新たな関わりを持つことができました。広島県ヘリテージマネージャー福山支部とは、専門分野の学習や情報共有の取り組みを進められると思います。

地域住民の方には、空き家問題や他地域の事例について大変興味を持っていただけたようです。今後も学習会を通じて、町並み保存と一緒に取り組み、町をどう活かしていくか行政に提言していきたいと思ひます。

専門家の方からは、文化財防災の大変さや重要性を伝えていただきました。島根県大田市で保存修理事業を担当している方には、引き続き技術面での指導をお願いしたいと考えております。



島根県大田市の大森銀山地区の見学会（2018年10月）



東京大学による空き家調査データをもとにしたワークショップには30名近くが参加（2018年12月）

課題と解決策

伝統的建造物群保存地区制度や文化財建物の保存について、スタッフや住民への学習会に時間がかかってしまいました。本来であれば技術部会を立ち上げ、地元の技術者の方と一緒に勉強する予定でした。

理想としては長い時間をかけ、地元の歴史を知り情報共有することが重要であると感じました。

解決策として、まず住民の理解度を深めるために、他地域の事例をもっと多く学ぶことや、学習会の内容をもっとくいだいた面白いものに変える方が良いのではないかと専門家からアドバイスをいただきました。技術者の育成については、私たち住民の理解度が深まらない限り業者を選べないため、今後は広島県ヘリテージマネージャー福山支部と協力して、実地演習と学習を

進めるように計画しています。

学習会の講師もお願いした島根県大田市で伝建地区を担当し、現在は市を退職し設計事務所を主宰している方に協力いただいて、学習会を開催する予定です。

今後の予定

岡山県の倉敷や兵庫県の出石など近県を中心に、実際に現場で活動している方を招いて、保存の課題や問題点、行政と住民の協力方法についてお話を聞く予定です。

技術面については、私たち研究会と広島県ヘリテージマネージャー福山支部が協力する体制を築いていきます。お互いが必要とする技術者育成と、鞆の浦のような江戸時代の建物について学習するという、双方に共通する課題の解消につながるのではないかと考えています。

●鞆・暮らしと町並み研究会

設立年月	2018年9月
メンバー数	20人
代表者名	山川 龍舟（やまかわ・りゅうしゅう）
Eメール	kuramachiken@gmail.com

【団体のミッション】伝統的建造物群保存地区のあり方について、住民とともに考えていきます。住民学習会の開催や毎月1回のかから版の発行、他地域との交流を通して町並み保存について学び、得た知識や経験をもとに市に提言していきます。